

平成 2 7 年度

事 業 計 画 書

平成 27 年 4 月 1 日から
平成 28 年 3 月 31 日まで

公益財団法人がん研究会

(はじめに)

公益財団法人がん研究会の平成27年度の事業計画は、公益財団法人化以降実施してきた組織、内部統制の整備及びコンプライアンス体制の強化を一層推進するとともに、当会が果たすべき使命を遂行するための財政基盤の確立を図る取り組みを推進していくこととしている。

(環境認識)

がん医療の推進は国を挙げての取り組みとなっており、様々な政策が打ち出されている状況下で、「がん克服をもって人類の福祉に貢献する」という当会の使命を果たしていくためには、診療と研究が一体となって新しいがん医療の実現を目指していくことが緊急な課題と認識し、具体的に取り組み我が国のがん医療の向上の一翼を担って行く。

(事業計画)

以上の状況を踏まえ、当会の事業目的を果たしていくため、本年度は次の点について取り組んでいくこととして事業計画を策定した。

1. がんに関する基礎から臨床までの体系的研究
2. がんに関する先進的な医療の推進
3. がんに関する調査研究及び出版等による情報発信
4. がんに関する検診及びがん予防に関する普及啓発
5. がんに関する研究の奨励及び研究活動の支援
6. がんに関する研究及び医療の推進又は普及のための人材の育成
7. がんに関する学術集会の開催又は優秀なる業績に対する表彰
8. がんに関する研究・医療のための国際交流
9. 国内および国際的な対がん運動への参加協力
10. その他目的を達成するために必要な事業

それぞれの事業内容は、以下の通り。

1. がんに関する基礎から臨床までの体系的研究

公益財団法人がん研究会は、基礎的ながん研究を推進している「がん研究所」に加えて、開発型研究や橋渡し研究の推進に特化した「がん化学療法センター」および「ゲノムセンター」と、臨床研究を推進する有明病院とが、一体となってがん研究拠点を形成しており、平成27年度も、基礎から臨床までの体系的がん研究を推進する。これらの研究事業の多くは、本財団および本財団に所属する研究者に交付される、文部科学省、厚生労働省および経済産業省の科学研究費等の公的資金や、国内の民間財団による研究助成金により支援され、その成果は、一流の国際的科学雑誌に発表するとともに、各研究事業の報告書に取りまとめて公開を行う。また、成果の一部に関しては、その知財を確保することにより、新規のがん医療開発への応用を促進する。

なお、これらの研究事業のうちの代表的なものは、以下の通りである。

(1) がんの基盤的基礎研究

がん研究会では、従来より、文部科学省の科学研究費補助金特定奨励費の支援を受けており、平成24年からは、3年間の予定で、「がんの基盤的基礎研究」の推進を予定してきたが、平成27年度から再び3年間の予定で、下記に示す新たな枠組みにより、体系的がん研究を、継続的に推進する予定である。

研究項目1. 先進的がん予防・診断法開発のための基盤的基礎研究

研究項目2. 先進的がん治療法開発のためのマルチオミックス解析による基盤的基礎研究

研究項目3. がん革新的病理診断法確立のための基盤的基礎研究

研究項目4. ヒトがん検体を用いた個体・細胞レベルのがんの基盤的基礎研究

(2) 次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラムの推進

平成23年度、文部科学省により、基礎的ながん研究の優れた成果を、効率的かつ戦略的に新たながん医療創生へと繋げるため開始された、次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム(P-DIRECT)は、平成26年度に、省庁連携によるがん研究事業として新たに立ち上がるジャパンキャンサーリサーチプロジェクト(JCRP)の基軸事業として拡充された。本プログラムでは、革新的ながん治療薬の開発等を目指した多くのプロジェクトが推進されたが、がん研究会は、文部科学省の委託を受けて、その一部を担当している。

平成27年度から JCRP は、新たに創設される日本医療研究開発機構(A-MED)に移管され、P-DIRECT も A-MED の事業の一部として推進されるが、がん研究会では、これまでと同じく、次世代の優れたがん医療の開発に繋がる研究開発を推進する。

2. がんに関する先進的な医療の推進

病院と研究所の緊密な連携のもと、医療現場における課題を研究へフィードバックすることによる新薬の開発などの研究成果の医療現場への適用を推進する。このための実施体制の充実を図り、患者さんがより迅速で安全に先進的な医療を受けられるよう体制整備を進める。

安全・安心で高質な医療を提供するため、診断および治療に関与する各部門の医師が参画して、先進的診断法で得られる各種情報をもとに最適な治療法を決定する「キャンサーボード」方式による最適な治療実施と共になんが患者さんに必須である癌と診断された時からの緩和ケアを推進し、先進的でシームレスながん医療を総合的に推進していく。

当院の強みと弱みを踏まえ、患者の利便性も考慮した医療を提供できるよう地域の医療機関との連携を推進するとともに、安全・安心で質の高い医療を提供していく。

3. がんに関する調査研究及び出版等による情報発信

当会の治療実績のデータベースや全国規模のがん登録データに基づくがん治療の質の

評価等の調査研究を推進するとともに、広報機能の強化により、広く社会に還元していく。

4. がんに関する検診及びがん予防に関する普及啓発

がんの早期発見・早期診断を一層充実させるため、がん発生の分子機構に関する新しい知見を取り入れ、健常者も含めた各種データを用いた解析により、新たながん予防法の開発に繋がるエビデンスを収集しながら、がん検診の標準的診断手法の開発を推進していくとともに、市民公開講座の開催などを通じて、広く社会に向けて、がん検診・がん予防に関する啓発活動を推進する。また、国が進めるがん検診の啓発に沿ってより多くのがん専門検診が実施できるよう施設・設備の増設及び人員体制の充実を図る。

5. がんに関する研究の奨励及び研究活動の支援

世界規模でのがん研究支援を行っている UICC (国際対がん連合) の一員として、UICC 国内委員会を通じて、がん研究者間の国際的共同研究を支援するための **Yamagiwa-Yoshida Memorial International Cancer Study Grants** の実施を引き続き支援するなど、国内外におけるがん研究の奨励や支援を行う。

また、文部科学省新学術研究「がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動（代表研究者：東京大学医科学研究所今井浩三教授）」において、平成22年からの5ヵ年計画の一部として、その中核的支援実施拠点として活動してきたが、このたび文部科学省科学学術審議会科学研究費部会において、本事業の6年目への延長が正式に決定した。そのため、本研究会では平成27年度も各種シンポジウム・ワークショップの開催やがん研究者の国際交流支援のほか、国内の研究者・研究機関の要望に対応して、各種化学療法剤スクリーニングの実施や発がんモデル動物の作製・提供等の活動を行い、引き続き国内のがん研究推進の支援を行う。

さらに、がん研究会は、文部科学省の次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム事業(P-DIRECT)においても、その事業の一環として、本研究事業に参加している国内の研究者に対する研究開発支援を行っており、平成27年度も引き続いて、ヒトがん検体の調整、がんゲノム配列の解析、分子標的の POC (proof of concept) 取得などの研究支援活動を行う。

6. がんに関する研究及び医療の推進又は普及のための人材の育成

がん研究会では、東京大学、東北大学を始め、6カ所の大学と連携大学院制度を運営し、また、外部の研究機関から多くの研究者を研究生として受け入れている。平成27年度も、これらの制度を通じて多くの外部人材を受け入れ、その育成を行う。また、有明病院においても、看護師等の様々な職種の医療人を研修生として受け入れ、がん実践研修プログラム等による育成を図り、がん治療の現場における指導者となるべき人材の養成を図っていく。

7. がんに関する学術集会の開催又は優秀なる業績に対する表彰

国内外のがん研究の振興を目的として、以下に示すセミナー等の学術集会の開催や、がん研究で優秀な業績を収めた研究者の表彰等を引き続き実施する。

- (1) 日本の抗がん剤開発の諸問題を討議し、より効果的な研究開発を推進することを目的とした「抗悪性腫瘍薬開発フォーラム」の開催
- (2) 国内外の著名ながん研究者による「がん研セミナー」の開催
- (3) 国内のがん医療・がん対策の推進について議論を行うことを目的とした「がん研アカデミー」の開催
- (4) 国内外で優れた業績を収めた研究者を表彰するための「比較腫瘍学常陸宮賞」事業の推進
- (5) 日本癌学会の学会賞の1つであり、がんの臨床研究や疫学研究で優秀な業績を収めた研究者に贈られる「長与又郎賞」への支援の実施

8. がんに関する研究・医療のための国際交流

がん研究・医療推進のための国際交流として、引き続きハーバード大学 MGH がんセンターとの研究交流、北京大学深セン病院などとの国際交流を実施する。また、日本における抗がん剤開発研究を促進するため「がん研－国際がん化学療法シンポジウム」を開催する。

9. 国内および国際的な対がん運動への参加協力

当会として、UICC 日本委員会の事務局および UICC アジア支局を設置し、その業務の支援を通じて、国際的な対がん運動のサポートを引き続き実施していく。

10. その他目的を達成するために必要な事業

平成26年度は、今後のがん研究会の事業をより一層拡充するために、平成23～25年度に実施してきたボトムアップの改善活動をさらに推進するため SG18 (Step Up Ganken 2018) 運動を展開し、全職員の英知と努力による効率化、収入アップとコスト削減の改善活動により健全な財政基盤の確立を精力的に推し進めた。平成27年度には前年の活動の成果を総まとめし、次ステップの活動を展開する。

また、約3年計画で平成26年度から開始した新たな放射線治療施設並びに外来棟の増設に伴う投資に対する募金活動を継続し、目標額に対する積み上げを図る。また、がん研究会の社会への役割と責任を明らかにし、事業の発展と継続を図る為に、その他の新規募金施策についても活動を開始する。

以上